

(別記)

令和7年度（2025年度）滋賀県水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本県は、耕地における水田率が93%と高く、水稻・麦・大豆などの土地利用型作物を中心とした水田農業が展開されており、水田利用率は110%と全国平均99%より高く、また、荒廃農地は3.7%と全国平均5.6%より大幅に少ない状況である。

主食用米については、近畿では唯一の移出県であり、関西では近江米として広く知られているが、平成30年産からの「新たな米政策」のもと、需要に応じた米づくりの推進や、一層のコスト低減等による収益性の向上、従事者の高齢化に伴う担い手の確保が必要となっている。

水田における畑作物の作付けについては、集落ぐるみによる団地化やブロックローテーションに取り組み、特に麦・大豆は、その大部分を集落営農組織や認定農業者などの担い手が生産する構造となっている。

麦は全国で第5位、大豆は第6位の作付けがある主産県であり、本県の戦略作物の中でも最も重要な作物として位置付けているものの、収量や品質が低く、高位安定化に向けた取組が必要となっている。また、水田フル活用による所得向上をさらに進めるには、水田野菜等の高収益作物などの導入を併せて進める必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

地域に適応した品種の選定、産地のブランド化、スマート農業の導入等の取り組みを通じて収益力の向上を目指すとともに、持続的で生産性の高い農業を推進する。また、生産者自らの経営判断による需要に応じた品目および品種(用途)の作付けを併せて推進する。

なお、麦・大豆をはじめとする畑作物の作付けにあたっては、排水対策が最も重要であることから、地域の土壌条件を勘案し適地適作を基本に、集落の範囲など一定のまとまりを持った取り組みを推進する。

特に、これまでからブロックローテーションをはじめとする集落ぐるみの取組が行われている地域においては、この取組を優先し継続されるよう配慮する。

また、個別の取組であっても、農地の集約化が進んでいる経営体にあっては、地域ぐるみの取組に準じ品目ごとに団地化が図られるよう推進する。

主食用米と比較して単位面積当たりの収益性の高い高収益作物にあたっては、都市近郊で消費地に近い立地条件や担い手による農業経営の展開等の本県の特徴を活かしつつ、実需者との結び付きの中で、需要に応じた導入に努める。

なお、高収益作物の推進に向けては、「国の水田農業高収益化推進計画の策定について（令和2年4月1日付け元生産第2167号・元農振第3757号・元政統第2085号農林水産省生産局長・農村振興局長・政策統括官連名通知）」を踏まえ、関係部局で推進体制を整え、高収益作物の導入・定着を支援する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本県において従来から取り組まれている集落ぐるみによる「水稻-水稻-麦-大豆」の3年4作体系によるブロックローテーションを基本に、地域の実情や品目ごとの需給状況を

勘案し、「水稻-麦-大豆」の2年3作のブロックローテーション体系や高収益作物や非主食用米等を組み合わせた作付体系を推進し、水田の有効利用・高度利用に努める。

水田の利用状況は農業者からの申告や関係団体との情報交換をもとに点検・把握し、農業者や関係団体と話し合いの上、水稻の作付けが難しいほ場等は畑地化支援を活用する等団地化を維持しつつ、地域の実情に応じて畑地化に向けた誘導を行い、高収益作物等の導入・定着化を支援する。

なお、高収益作物の導入・定着化支援に当たっては、県が策定した「水田農業高収益化推進計画」に基づき取組を支援する。

4 作物ごとの取組方針等

需要に応じた「売れる品目・品種」を選定し、経営規模や栽培環境に合わせた適地適作・作期分散を推進することで水田をフル活用し、本県水田農業の収益力の向上を図る。

(1) 主食用米

「近江米生産・流通ビジョン」(令和5年3月、近江米振興協会改訂)に基づき、事前契約による安定した取引を確保しつつ、品種別・用途別の需要に応じた生産を促進する。

家庭用については、食味ランキングで最高ランクの「特A」評価を獲得した「みずかがみ」や「コシヒカリ」を中心に、環境こだわり農業の柱の一つとして位置付ける「オーガニック農業」や新品種「きらみずき」を持続可能な農業のシンボルとして、本県ならではの「環境こだわり米」や有機栽培を推進し近江米のブランド力向上を図るとともに、業務用については「キヌヒカリ」、「秋の詩」、「日本晴」を中心に低コストによる多収栽培を進め、需要に対応する。

さらに、農地の集積・集約化を図るなど作業の効率化を進めることにより、さらなるコスト削減を図り、産地の競争力を高める。

(2) 備蓄米

国での入札の動きに合わせて、需給状況に応じた対応を行う。

(3) 非主食用米

水田の有効活用を図るための重要な品目と位置付け、麦・大豆の作付けに適さない地域や麦・大豆の作付けに限界感のある地域を中心に作付けを推進する。ただし、取組形態は、需要と地域や経営体の実情に応じて選択するものとし、産地交付金を活用し、必要に応じて区分管理による団地化の取組や複数年契約等を推進する。

ア 飼料用米

耕畜連携を進め、県内流通の拡大を図るとともに、非主食用米の取組の中心的品目と位置付け、実需者との複数年契約に基づく計画的な生産を推進する。

区分管理による作付けに当たっては団地化を進めるとともに多収品種の活用や直播栽培等の省力的な技術の導入等により生産性の向上を図る。

また、一括管理方式による飼料用米の出荷についても、地域の実情や主食用米の需給状況を勘案し柔軟に推進するものとする。

イ 米粉用米

実需者との複数年契約に基づく計画的な生産を推進する。

区分管理による作付けに当たっては専用品種や多収品種の活用、直播栽培等の省力的な技術の導入等により生産性の向上を図る。

また、地域の実情に応じて一括管理方式も柔軟に推進する。

ウ 新市場開拓用米

輸出用をはじめ実需者との契約に基づく計画的な生産を推進する。契約を複数年で結ぶなどの安定的な取引を進める。

エ WCS 用稲

産地交付金を活用し耕畜連携を進め、県内流通の拡大を図るとともに、団地化や多収品種の取組により生産性、収量の向上に努める。

オ 加工用米

複数年契約など実需者との結びつきを強化し、一括管理方式を基本に需要に応じた計画的な作付けを推進する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

需要が見込める品目として契約に基づく確実な作付けを行うとともに、経営判断に基づく品目選定を推進する。

また、排水対策を徹底するとともに、土づくり、適期適正播種、病害虫・雑草防除、適期収穫などの基本技術の励行を推進する。麦では「びわほなみ」への転換、大豆では「ことゆたか A1 号」への転換や 300A 技術の推進を図り、収量および品質の向上を図る。

特に、効率の良い排水対策や作業の効率化を図るためには、地域ぐるみで取り組むブロックローテーションや団地化の取組が重要であることから、二毛作も含め産地交付金を活用し推進する。

なお、令和 8 年産麦の作付けに当たっては、令和 7 年産麦の一部の品種においてミスマッチが生じていることから、品種ごとの需要に応じた播種前契約に基づく作付けを徹底するとともに、実需者のニーズに基づき、産地と関係機関が連携し、用途に応じた品質を供給できるような栽培管理に努める。

国際情勢の変化等により、輸入飼料の価格高騰が続く中、県内畜産農家の需要に対応するため、労働生産性の高い子実用トウモロコシをはじめとする飼料作物の作付けを推進する。

(5) そば、なたね

地域振興作物と位置づけ、各地域の実情に合わせた取組について、産地交付金を活用し推進する。

また、ほ場の団地化や、排水対策の徹底など基本技術の励行を進める。

(6) 地力増進作物

県域での地力の低下に対応し、農業生産の基盤である土壌の生産力向上を図り、持続可能な農業を進めるため、産地交付金を活用し推進する。また、麦・大豆や高収益作物等の高付加価値化を図る。

ヘアリーベッチ、レンゲ、クローバー、ソルガム、イタリアンライグラス、エン麦や青刈りトウモロコシ等の作物だけでなく、地力増進の効果が認められる作物につい

て推進を行う。また県の「水田農業高収益化推進計画」に位置付けた子実用とうもろこしについては残渣の鋤き込み後の地力向上の効果が認められることから、子実用とうもろこしの残渣を地力増進作物と位置付け、推進を行う。

(7) 高収益作物

加工業務用需要や市場出荷をめざす「市場出荷型園芸産地」については、生産性向上技術や低コスト省力化のための機械・施設の導入や、複数産地にまたがる産地の広域化を推進する。また直売所等に出荷・販売される「誘客型園芸産地」については、環境こだわり栽培などの生産を推進する。

それらの取組を進め、水田作経営の複合化による農家所得の向上や地産地消を推進する取組について、産地交付金を活用し推進する。

(8) 畑地化

畑地化の推進については、地域のブロックローテーションに支障が生じないよう、農業者や関係団体との話し合いの上、地域の実情に応じて畑地化に向けた誘導を行い、高収益作物や戦略作物等の導入・定着化を支援する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 地域農業再生協議会が水田収益力強化ビジョンを策定する場合には、都道府県水田収益力強化ビジョンの後に添付してください。

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	27,305		27,733		28,000	
備蓄米	197		202		261	
飼料用米	1,425	0	1,334	0	1,650	0
米粉用米	50	0	44	0	65	0
新市場開拓用米	250	33	247	0	220	20
WCS用稲	334	0	349	0	320	0
加工用米	513	40	452	0	450	10
麦	8,704	199	8,647	188	8,500	150
大豆	6,925	6,389	6,901	6,264	7,500	6,800
飼料作物	275	86	270	92	300	90
・子実用とうもろこし	28	0	26	0	46	0
そば	546	426	570	457	580	480
なたね	36	24	37	24	40	30
地力増進作物	12	29	59	50	50	30
高収益作物	928	383	1,022	414	2,092	1,301
・野菜	841	350	912	380	940	400
・花き・花木	35	1	39	1	45	1
・果樹	8	0	16	0	12	0
・その他の高収益作物	44	32	56	34	1,095	900
その他	11	0	17	0	21	1
・たばこ	1	0	1	0	2	0
・ハーブ	0	0	1	0	1	0
・こんにゃく芋	4	0	4	0	5	0
・薬用植物	0	0	1	0	1	0
・その他	7	0	11	0	12	1
畑地化	7		27		7	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦、大豆 （基幹作）	麦・大豆生産性・品質向上助成 （団地化型）	平均単収	麦（R6年度）319 kg/10a 大豆（R6年度）71kg/10a	麦（R8年度）363 kg/10a 大豆（R8年度）162kg/10a
2	そば、なたね （基幹作）	そば・なたね振興助成 （基幹作）	そば、なたね作付面積 （基幹作）	（R6年度）124ha	（R8年度）140ha
3	戦略作物等 （二毛作）	戦略作物等助成 （二毛作）	戦略作物等作付面積 （二毛作）	戦略作物等 （R6年度）7,759 ha	戦略作物等 （R8年度）8,100 ha
4, 5	WCS用稲、加工用米、米粉用米、飼料用米、新市場開拓用米 （基幹作、二毛作）	飼料用稲等生産性向上助成 （基幹作、二毛作）	WCS用稲、加工用米、米粉用米、飼料用米、新市場開拓用米の生産性向上に資する取組面積	WCS用稲 （R6年度）317ha WCS用稲以外 （R6年度）2,620ha	WCS用稲 （R8年度）340 ha WCS用稲以外 （R8年度）3,060 ha
6	新市場開拓用米 （基幹作）	新市場開拓用米助成 （基幹作）	新市場開拓用米作付面積 （基幹作）	（R6年度）216ha	（R8年度）220ha
7, 8	加工用米、新市場開拓用米 （基幹作、二毛作）	複数年契約助成 （加工用米・新市場開拓用米） （基幹作、二毛作）	加工用米、新市場開拓用米の複数年契約に基づく作付面積	（R6年度）119ha	（R8年度）140ha
9, 10	新市場開拓用米 （基幹作、二毛作）	複数年契約加算 （新市場開拓用米） （基幹作、二毛作）	新市場開拓用米の複数年契約に基づく作付面積	（R6年度）8ha	（R8年度）40ha
11	飼料作物 （基幹作）	飼料作物助成 （基幹作）	飼料作物作付面積 （基幹作）	（R6年度）175ha	（R8年度）180ha
12, 13	地力増進作物 （基幹作、二毛作）	地力増進作物助成 （基幹作、二毛作）	地力増進作物作付面積	（R6年度）29ha	（R8年度）50ha
14	飼料作物等 （基幹作）	耕畜連携加算 （耕畜連携）	耕畜連携取組面積	（R6年度）511ha	（R8年度）600ha
15, 16	別紙地域振興作物一覧にある野菜、花き・花木、果樹、雑穀、特用作物 （基幹作、二毛作）	地域振興作物助成 （基幹作、二毛作）	野菜、花き・花木、果樹、雑穀、特用作物作付面積	（R6年度）950ha	（R8年度）1,200ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:滋賀県

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	麦・大豆生産性・品質向上助成(団地化型)	1	4,000	麦、大豆 (基幹作)	概ね1ha以上の団地化。
2	そば・なたね振興助成(基幹作)	1	20,000	そば、なたね (基幹作)	農協等との出荷契約または需要者等との販売契約に基づいて出荷する。
3	戦略作物等助成(二毛作)	2	9,000	戦略作物等 (二毛作)	農協等との出荷契約または需要者等との販売契約に基づいて出荷する。 戦略作物等とは、麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米、新市場開拓用米、そば、なたねを指す。
4	飼料用稲等生産性向上助成(基幹作)	1	1,000	WCS用稲、加工用米、米粉用米、飼料用米、新市場開拓用米	生産性向上のための取組を行う。
5	飼料用稲等生産性向上助成(二毛作)	2			
6	新市場開拓用米助成(基幹作)	1	20,000	新市場開拓用米 (基幹作)	農協等との出荷契約または需要者等との販売契約に基づいて出荷する。
7	複数年契約助成(加工用米・新市場開拓用米) (基幹作)	1	2,000	加工用米、新市場開拓用米	需要者との3年以上の複数年契約に基づき作付けを行う。 整理番号9,10と重複助成不可。
8	複数年契約助成(加工用米・新市場開拓用米) (二毛作)	2			
9	複数年契約加算(新市場開拓用米) (基幹作)	1	10,000	新市場開拓用米	需要者との3年以上の複数年契約(令和6年産以降に締結したもの)に基づき作付けを行う。 整理番号7,8と重複助成不可。
10	複数年契約加算(新市場開拓用米) (二毛作)	2			
11	飼料作物助成(基幹作)	1	10,000	飼料作物 (基幹作)	飼料作物の作付けを行う。
12	地力増進作物助成(基幹作)	1	5,000	地力増進作物	地力増進作物を作付けし、鋤き込みを行い、跡作に作付けを行う。
13	地力増進作物助成(二毛作)	2	5,000		
14	耕畜連携加算(耕畜連携)	3	10,000	飼料作物等(子実とうもろこし追加) (基幹作)	耕畜連携の取組を行う。 飼料用米については生産性向上のための取組を行う。
15	地域振興作物助成(基幹)	1	13,000	別紙地域振興作物一覧にある野菜、花き・花木、果樹、雑穀、特用作物	「明渠」、「暗渠の施工」、「高畦栽培」、「心土破碎」、「土づくり」のいずれかに取り組む。
16	地域振興作物助成(二毛作)	2			

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

地域振興作物一覧(県設定分)

長浜市農業再生協議会

対象作物(下限面積1a以上)

地域振興作物				
園芸作物				
野菜		花き	雑穀	特用作物
だいこん	レタス	アスター	小豆	山菜
かぶ	パセリ	かすみそう	あわ	こんにやく芋
すぐき	サニーレタス	きく	きび	あおばな
にんじん	モロヘイヤ	キンギョソウ	ひえ	たばこ
ごぼう	アスパラガス	キンセンカ	ハトムギ	いぐさ
れんこん	かぼちゃ	ケイトウ	らっかせい	ハーブ類
しょうが	とうもろこし	コスモス	ごま	薬用作物
さつまいも	青さやいんげん	小ぎく		香用作物
じゃがいも	キヌサヤ	ゴテチャ		搾油用ひまわり
さといも	エンドウ豆	スターチス		かんぴょう
やまいも	そらまめ	ストック		ひょうたん
ヤーコン	えだまめ	センニチコウ		搾油用えごま
セレベス	なたまめ	チューリップ		搾油用なたね
はくさい	カリフラワー	チドリソウ		よもぎ
ほうれんそう	ブロッコリー	トルコキキョウ		ホップ
こまつな	オクラ	なでしこ		茶
ちんげん菜	きゅうり	パンジー		わさび
みずな	ズッキーニ	ひまわり		
みつば	うり類	べに花		
しゅんぎく	なす	マリーゴールド		
みぶ菜	あおとう	やぐるまそう		
日野菜	ししとう	ユリ		
そば菜	トマト	ラン		
サラダ菜	ミニトマト	ローダンセ		
青菜	ピーマン	切り花用菜の花		
ねぎ	食用花	ほおずき		
わけぎ	いちご	葉ボタン		
ニラ	メロン	花き類		
セリ	すいか	バラ		
ふき	まくわ	シクラメン		
ウド	芋じく			
たまねぎ	亜麻			
にんにく	つくね芋			
らっきょう	えごま			
みょうが	とうがらし			
くわい	ラディッシュ			
しそ	ササゲ			
キャベツ	青パパイヤ			
セルリー	マコモダケ			
出荷用野菜苗				